

東アジア文化都市 2026 松本助成事業（一次募集）審査結果

■審査について（総評）

この度は、東アジア文化都市 2026 松本助成事業（一次募集）に多くのご応募をいただきありがとうございました。

合計 29 件（発信プログラム 10 件、参加プログラム 19 件）の応募をいただき、全ての書類審査と、発信プログラムに関してはプレゼンテーション審査も行った結果、11 件（発信プログラム 4 件、参加プログラム 7 件）の採択を決定いたしました。

今回の審査に際しては、公正さが求められる現下の状況を踏まえ、実行委員会の外部から、本助成事業に関わる専門性を有する審査員を配置して、客観的な判断を強化するとともに、松本市の事業としての整合性に配慮して審査を実施しました。

本助成事業は、東アジア文化都市 2026 松本を、松本の文化を広く発信し、市民とともに盛り上げる文化の祭典にしていくために、様々な市民が関わることができる、参加の裾野を広げるような企画を、市民の発案で行うことを目的として行うものです。

応募いただいた 29 件の事業計画のほとんどに、何らかの魅力的な視点やアイデア、地域での活動の蓄積が反映された工夫が見られ、松本の市民文化力の高い水準を示すものであったというのが審査員一同の評価です。

一方で、今回の一次募集での採択が当初の想定件数（全 24 件）の半分を下回ったのは、以下のような傾向があったためです。

○収支予算に関して、特に支出の内訳について具体的な記載がなかったために、事業計画との関係や費用・値段等の適切性が判断できなかった例が多くありました。

○松本市が別途資金補助を行っている事業や、東アジア文化都市 2026 松本実行委員会主催共催事業との区分が曖昧で、松本市が単一事業に重複して支援することになる恐れのある例がいくつかありました。